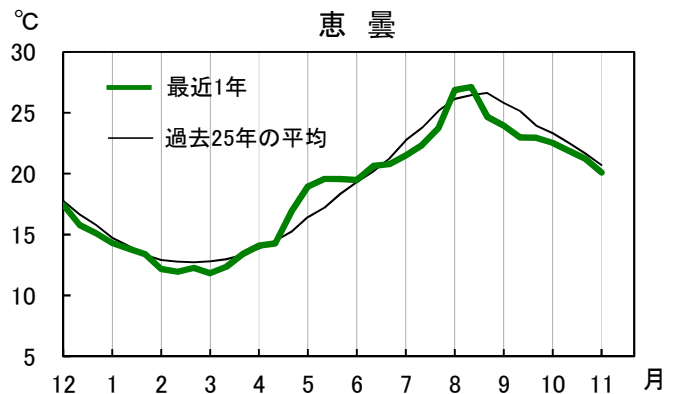
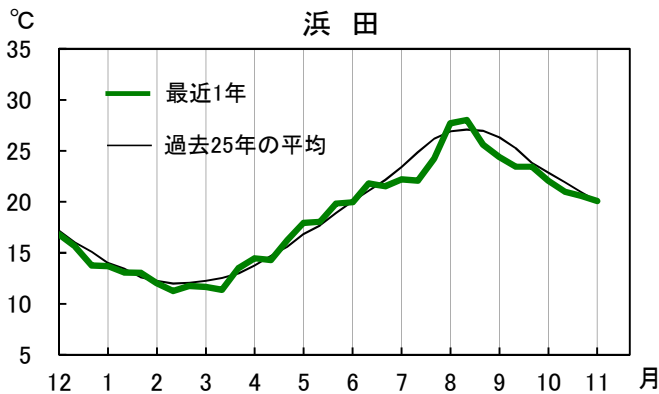




《10～11月の海況》

10月	月平均	平年差	評価
浜田	21.2℃	-0.7℃	やや低め
恵曇	21.8℃	-0.6℃	やや低め

沿岸定地水温は、浜田地区では10月は上・中旬が「やや低め」でしたが、下旬は「平年並み」となりました。11月に入り上旬では同様に「平年並み」で経過しています。恵曇地区では10月は上～下旬とも「やや低め」であり、11月に入り上旬では同様に「やや低め」で経過しています。



《10月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は10.5トンで平年を下回りました。全漁獲量の内、主体であるマアジは121トンで平年の4割、サバ類は47トンで平年の6割となりました。西郷、浦郷地区ではマイワシ、ウルメイワシ、カタクチイワシ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は、西郷は81.8トンで平年を下回り、浦郷は66.5トンで平年並みとなりました。全漁獲量の内、西郷ではマイワシの漁獲量が3,246トンで平年の1.9倍、浦郷では1,219トンで平年の3.2倍でしたが、例年主体となるマアジは西郷では461トン、浦郷では483トンでそれぞれ平年の2割から3割程度となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の84%）の漁況で、スルメイカ（全体の16%）も混じり、1隻1航海当りの漁獲量は531kgで平年を上回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体のほぼ100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は66kgで平年を下回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ主体の漁獲でした。1統1航海当たり漁獲量は13.7トンで前年の1.4倍でほぼ平年並みの水揚げとなりました。主要な漁獲物であるムシガレイは平年の7割と低調でした。その他、ケンサキイカは平年の6割、アナゴ類、キダイ、アンコウはそれぞれ平年の1.1倍の水揚げでした。

【小型底びき網漁業】

和江地区ではヤリイカ、ソウハチ、キダイが主体、久手地区ではマダラ、ヤリイカ主体の漁況でした。1隻1航海当りの漁獲量は、両地区共にほぼ平年並みでしたが、出漁日数が少なかったため総漁獲量は両地区とも平年の7割でした。和江地区ではヤリイカが平年の4.0倍、ソウハチが平年の1.2倍、キダイが平年の7割の水揚げでした。久手地区ではマダラが平年の1.4倍、ヤリイカが平年の3.1倍、ソウハチは平年の5割、アンコウは平年の9割の水揚げでした。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ、ブリ、サワラ類主体の漁況で、1統当りではマアジ、ブリ、サワラ類がそれぞれ平年の7割から5割程度となり、全統の総漁獲量は65トンで平年を下回りました。出雲地区ではマアジ、ブリ、サワラ類主体の漁況で、1統当りではマアジが平年並みだったものの、ブリ、サワラ類がそれぞれ平年の6割から5割程度となり、全統の総漁獲量は261トンで平年を下回りました。隠岐地区ではウルメイワシ、ブリ、マアジ主体の漁況で、1統当りではウルメイワシが平年の2.8倍だったものの、ブリ、マアジを含む多くの魚種が平年を下回り、全統の総漁獲量は24トンで平年を下回りました。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は24kgで平年を下回りました。石見地区でケンサキイカ、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は25kgで平年並みでした。隠岐地区ではクロマグロ（ヨコワ）、ケンサキイカ、マダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は14kgで平年を下回りました。全地区で漁獲の主体であったケンサキイカは低調であった前年を上回りましたが、平年を下回っています（全地区合計漁獲量：前年の5.5倍、平年の50%）。

【平成 27 年 10 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類	199トン	54%	42%	10.5トン	59%	62%	▲
	西郷	マイワシ、カタクチイワシ	6,630トン	129%	72%	81.8トン	126%	75%	▲
	浦郷	マイワシ、ウルメイワシ、カタクチイワシ	3,326トン	100%	78%	66.5トン	123%	91%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	276トン	405%	115%	531kg	228%	170%	◎
	西郷	ケンサキイカ	3トン	34%	10%	66kg	81%	25%	▲
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ	328トン	108%	91%	13.7トン	135%	104%	○
小型底曳網	久手	マダラ、ヤリイカ、ニギス、ソウハチ	144トン	84%	67%	846kg	107%	101%	○
	和江	ヤリイカ、ソウハチ、キダイ	247トン	90%	73%	816kg	109%	99%	○
定置網 (大型)	浜田	カタクチイワシ、マアジ、サワラ類	23トン	604%	74%	1.4トン	113%	93%	○
	美保関	マアジ、サワラ類、ブリ	110トン	50%	68%	1.1トン	43%	62%	▲
	浦郷	ウルメイワシ、ブリ、マアジ	23トン	89%	58%	785kg	86%	59%	▲
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、ヒラマサ	13トン	173%	61%	42kg	169%	87%	○
	大社	ケンサキイカ、ブリ、ヒラマサ	11トン	124%	86%	25kg	101%	82%	▲
	西郷	クロマグロ(ヨコワ)、カサゴ・メバル類、 ケンサキイカ	5トン	44%	23%	9kg	22%	27%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成27年11月26日

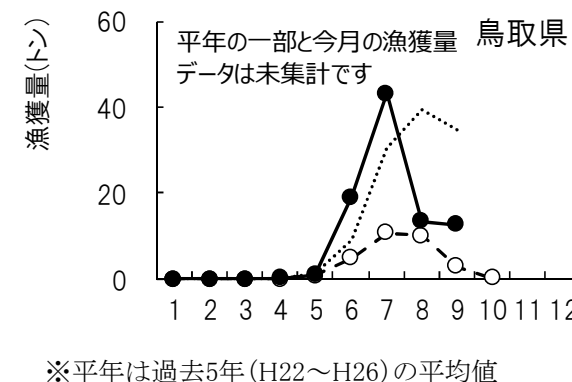
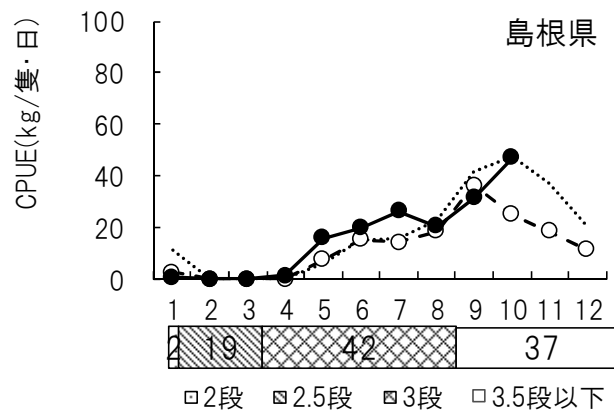
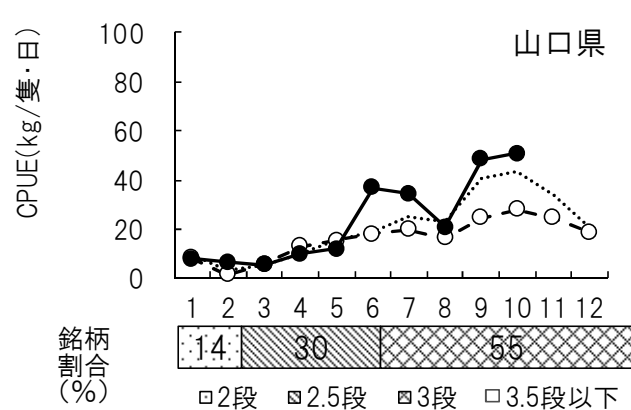
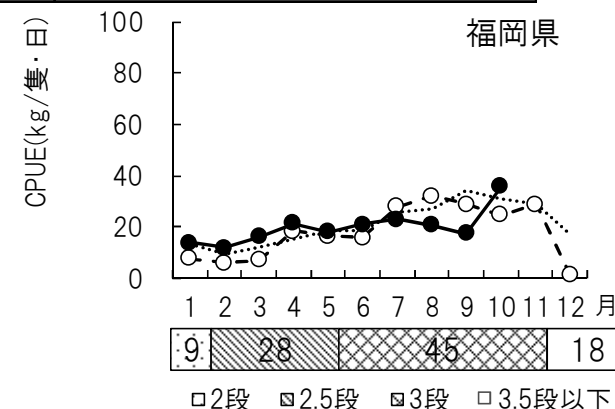
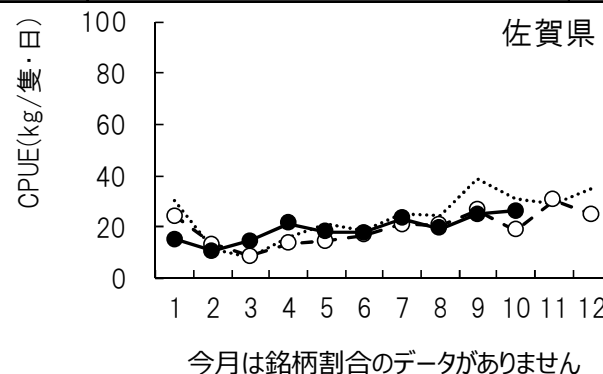
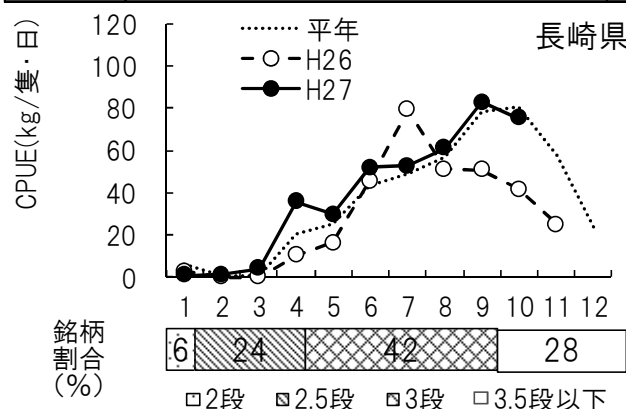
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：10月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

長崎県～島根県では福岡県(平年を上回る)を除き平年並み～平年を下回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	10月は低調であった前年を上回りましたが、平年を下回りました(前年比181%、平年比59%)。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年を上回り、平年並みでした(前年比194%、平年比103%)。	福岡県	代表港の漁獲量は、前年、平年ともに上回りました(前年比216%、平年比177%)。
山口県	代表2地区の漁獲量は前年を大きく上回り、平年並みでした(前年比357%、平年比92%)。	島根県	主要7港のケンサキイカの水揚げ量は272トンでした(前年比658%、平年比72%)。	鳥取県	9月までの水揚げ量は前年を上回り、平年を下回りました(前年比299%、平年比78%)。10月分の漁獲量については集計中です。



Ⅱ：11月上旬の底層水温

長崎県	10月は底水温は16-22℃台で推移しました。	佐賀県	壱岐水道の底水温は、20.7～21.0℃で 平年並み、対馬東海道の底水温は16.1 ～21.0℃でやや低めからやや高めでした。	福岡県	沖合域の底層水温は17～19℃台でかなり 低めから平年並みとなっています。
山口県	底層水温は8～21℃で、平年並みから低 めであった。川尻岬北西40海里付近に 10℃以下の冷水があり、この海域では はなはだ低めであった。	島根県	島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深 80～130mが10.0～20.4℃、それ以深が 1.8～7.6℃でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は17℃前後 で、先月より1℃高めの値となっています。

